授業改善シンポジウム報告書

家政教育講座・藤田昌子

１．授業改善シンポジウムの基本情報

今年度は，教職課程における最終授業科目である「教職実践演習」がテーマで,「教職実践演習」についての理解を深めるとともに,「教職実践演習」を通してみえてくる愛媛大学の教員養成カリキュラムの課題について考察し，個々の授業とのつながりを考えることをねらいとしたものであった。話題提供者は，池野修先生，山崎哲司先生，小田哲志先生であった。

２．授業改善シンポジウムの内容

まず，池野修先生により,「教職実践演習の全体像」について話題提供があり，教職実践演習の位置づけだけでなく，教職課程学習ポートフォリオやリフレクションディといった教職関連の取り組みを改めて確認することができた。また，教職実践演習の内容を決めるにあたって留意されていることや，自分が担当するパート３（教科（教育）系教員が担当）の学習の前に,パート１（教職系教員が担当）およびパート２（外部講師，苅田先生，教職系教員，教職コーディネーターが担当）で学生がどのような学びをしているかについても改めて確認できた。さらに，池野先生が担当されたパート３の内容と進め方について知ることができ，特に模擬授業およびレポートの評価規準と評価方法が大変参考になった。

次いで山崎哲司先生により,「他大学の状況と教職実践演習の意義」について話題提供がなされた。教大協などで得られた他大学の教職実践演習の状況が紹介され，他大学ではどのような取り組みがなされているかがわかった。そして，それらを踏まえたうえで，愛媛大学の特徴と教職実践演習の意義について理解することができた。

最後に，小田哲志先生により,「教職実践演習からみた学生の姿」について話題提供があった。教職実践演習のパート１・２において，実際に小田先生が使用された配布資料が提示されたことで，具体的にどのような授業が行われたのか，そして学生はどのような反応を示したのかなどを知ることができた。また，松山市内の校長や教育委員会指導主事を対象に行った調査結果が紹介され，現場の生の声を知ることができた。特に，現場が望む人材について，人間力，教師力，教育技術の観点から整理されおり,本学の学生の「強み」と「弱み」を踏まえて，今後どのような学生を育てていけばよいかについて考えることができた。

３．授業改善の方策

「教職実践演習」は 2013 年度より担当し，今年で 3 年目である。今回の授業改善シンポジウムに参加することで，自分の授業を振り返ることができた。シンポジウムの内容を参考にし，以下の 2 点について，今後改善・検討していきたい。

(1)模擬授業およびレポートの評価規準

これまでは，DP を示すことで，模擬授業およびレポートをどのように評価しているかを学生に提示していた。しかし，これでは不十分であるため，今後は評価規準を示すことで，学生自身も自分の到達点を明確化でき，模擬授業の省察も効果的に行えるようにしたい。

(2)模擬授業の進め方

教育法等で行う模擬授業は，授業実践力をつけるのが目的であったが，教職実践演習における模擬授業は，教育実践力がついているかどうかを判断することが目的である。そのため，グループで模擬授業を行った場合，学生間で取り組みに差が生じるため，1 人で模擬授業を実施することにこだわってきた。そのため,1 人の持ち時間は 15 分(+省察 5 分)が限界であり，毎時間 4 人×4 日間で実施している。50 分の授業を構想したうえで，いくつかの部分に焦点化して模擬授業を実施するよう指示しているが，実演時間が 15 分と短いため,今年度は指導案上には空想で記載し，授業全体をきちんと構想できていない学生が散見された。模擬授業の進め方について検討・改善していきたい。